



利用者の声



貸付制度を利用し、医療現場で活躍されている医師を紹介します。

今回ご紹介する方は、令和2年4月より土岐市立総合病院の小児科で勤務医として働いている水野佑也先生です。水野先生は、平成20年度に開始した貸付制度の最初の利用者でもあります。

貸付制度を利用した理由は何ですか。

医学部進学によってかかる授業料や教材費、下宿にかかる生活費などを奨学金で補填することで、過度なアルバイトをせず学業に専念できると考えたためです。また、将来的に勤務病院を選ぶ際、地元での勤務に抵抗が無ければ就職先も確保できるためです。

返還免除の条件である、東濃地域の指定病院で医師として働くという部分もメリットになるということですね。

現在、医師として働いてみていかがでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年より患者数が大きく減っています。特に当院では学童や幼児においてはRSウイルスやマイコプラズマに感染した患者さんが殆どいません。外出の自粛や手洗いうがい、マスク着用など患者さんレベルでの対策を徹底するだけで、ここまで感染症の流行は抑制出来るのかと実感しています。



土岐市立総合病院 小児科
水野 佑也 医師 (34)

土岐市泉町出身
平成20年度 貸付決定者



注射を怖がる小さなお子さんへの予防接種のようす。

仕事にかける想い

医師の考える最善と、患者さんの求める医療は違うことがあります。患者さんの目線で物事を考え、また第三者の視点で考えて診療に携わりたいです。

医師を目指す方に一言

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、国民の意識と医療のあり方が大きな変化を迎えています。その中で医師を目指す皆さんには、新時代の医師の魁として活躍して頂きたいと思っています。

皆さんの力が現場に新しい風を吹かせてくれるのを楽しみにしています。

貸付制度について興味のある方は、次ページをご覧ください。か、東濃西部広域行政事務組合までお問い合わせください。

